

平成29年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の学習意欲を高める授業を 実践し、確かな 学力を身に付け させるととも に、表現する 力・伝える力を 育成する。	① 生徒に興味・関心を持 って授業に取り組 ませ、学力向上を図 る。	教務課 各教科	昨年度「授業がわ かりやすい」と答 えた生徒が87% であった。今年度 の2年生より新し いコース制が開始 される。軌道に乗 せるためにも昨年 同様、授業改善に 取り組む。	【満足度指標】 授業がわかりやす いと感じる生徒が 増加したか。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割 合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場 合、授業方法及び 内容を検討する。	前期、後期 に全生徒を 対象にアン ケート調査
	② 他の意見・考えを教 えあう「学び合い」 (言語活動)を取り 入れた授業を推進す る。	教務課 各教科	昨年度65%の教 員がICT機器を 有効に活用して授 業を実践してい る。本年度は表現 する力・伝える力 に重点を置き、更 なる改善を進めて いきたい。	【努力指標】 「学び合い」(言 語活動)に重点を 置いた授業が実践 できたか。	「学び合い」(言語活動)に重点を置 いた授業を実践した教員の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場 合、改善策を検討 する。	前期、後期 に教職員を 対象にアン ケート調査
	③ 授業を中心に、学校 生活全般を通じて、 表現する力・伝える 力を育成する。	教務課 各教科 各学年 生徒指導課	昨年度より新生徒 手帳を導入し、自 分自身のことを表 現する力の養成を 図ってきた。今後 は人との積極的な コミュニケーション の方法を指導し ていきたい。	【満足度指標】 授業を含め学校生 活全般を通じて 「表現する力・伝 える力が向上し た」と感じる生徒 が増加したか。	「表現する力・伝える力が向上した」 と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場 合、方法及び内容 を検討する。	前期、後期 に全生徒を 対象にアン ケート調査
	④ 各種検定試験を通し て学習意欲を高め る。	教務課 商業科	昨年度3年生と比 較して2年次の取 得者数が30名少 ない。可能な限り 多くの取得者が 出るよう指導して いきたい。	【成果指標】 3年生の資格の取 得の意欲が向上 し、資格を取得で きたか。	3年生の1級3種目の取得者が、 A 180人以上である B 160人以上である C 140人以上である D 140人未満である	評価がC、Dの場 合、指導方法及び 内容を検討する。	年間を通じて 調査

自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	昨年度の学校評価アンケートでは、肯定的評価は91%。まだ向上の余地があると思われる。	【成果指標】 相手の顔と目を見てさわやかな挨拶ができたか。	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	② 生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課	昨年度は遅刻0の日が118日となり、一昨年より110日を上回った。	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っているか。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 120日以上である B 100日以上である C 80日以上である D 80日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査
	③ 実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートでは、仕入から販売及び管理・運営など、実践教育とビジネスマナー教育の場として位置付けられており、生徒も積極的に取り組んでいる。今年度は全国産業フェアとのタイアップで更なる充実に図りたい。	【成果指標】 金商デパートにおいて学校で学んだことを生かしたか。	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かした生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査
	④ 英語のコミュニケーション能力の向上に取り組む。	英語科	昨年度の全商英検の合格者は、1,2級の総計で73名であった。英語のコミュニケーション能力を高める授業改善に取り組み、英検取得者の増加を図りたい。また、合格者の割合を全国との比較でも検討してみたい。	【成果指標】 英語の基礎的なコミュニケーション能力向上の目安として、全商英検2級（またはそれと同等の資格）以上を取得した人数を一定数確保できたか。	全商英検2級（またはそれと同等の資格）以上を取得した人数が、 A 100名以上である B 80名以上である C 60名以上である D 60名未満である	評価がC、Dの場合、英語学習が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商英検2級（またはそれと同等の資格）以上の合格者数を調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課 (就職)	進路ガイダンスをはじめ、キャリア教育に力を注いできた。求人件数も増加し生徒の希望職種への受験も可能となった。雇用状況も回復し、今年度も合格率の向上と、企業への定着率を促進する指導を進めたい。	【成果指標】 就職希望者において、進路実現に向けて具体的な取り組みができたか。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進路指導課 (進学)	昨年度の評価はC評価であった。3年生への働きかけは充実しているが、1・2年生への情報提供の満足度はいずれも70%台であったので、各学期にガイダンスを行うなどの取組を推進していきたい。	【成果指標】 進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めたか。	進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めた生徒が、 A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 第1学年	昨年度の評価はD評価であった。早い段階から希望進路への取組内容を吟味・充実する必要がある。	【成果指標】 1年生において、希望進路に向けた具体的な取り組みができたか。	1年生において、希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたという生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、1年生の生徒を対象にアンケートを調査

自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	昨年度は女子バレーボールの他、野球部、男子バレーボール部、ソフトテニス部、少林寺拳法部、バドミントン部、ソフトボール部、駅伝部、新体操部の9部が「ベスト4」以上を達成している。この成績を維持していきたい。	【成果指標】ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができたか。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	特活課 商業科	昨年度県大会では、珠算競技、電卓競技、情報処理競技での3競技が優勝であった。	【成果指標】団体での優勝が、目標を上回ることができたか。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	部活動単位でボランティア活動を行った結果、昨年度のボランティア活動に取り組む生徒の割合は77%であった。	【成果指標】各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めたか。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	昨年度は97%でA評価であった。引き続き継続を図りたい。	【成果指標】美化委員会を中心に清潔な環境の維持に努め、清掃・節電・節水やゴミ分別の意識を高められたか。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査